

コロナ禍において奮闘する 先生方のためのオンライン・リレー講座

京都大学大学院教育学研究科 E.FORUM は、広く教育に関心を持っている人びとが集まり、ともに語り合うことを通して、お互いの教育力量を向上させることを目的とした「広場」です。新型コロナウイルス感染症の影響により、社会環境の変化、オンライン授業の実施、子どもたちへのケアなど、多くの先生方が今まで経験されたことのない状況のなかで奮闘されていることと存じます。E.FORUM では、そのような先生方のお悩みを少しでも解決できないかと考え、オンラインによるリレー講座を企画いたしました。先生方のご参加をお待ちしています。

日程 2020年 7月5日(日)、19日(日)、8月2日(日)、16日(日)
14:00～16:00

対象 学校・教育委員会の関係者、教員志望の学生

定員 300名程度

受講料 2,000円(税込)/回 ※クレジットカードのみ
本学都合以外での入金後の返金は一切できません。何卒ご了承くださいませ。

環境 ZOOMによるオンラインライブ配信
(インターネット環境が必要です。データ容量 1GB程度)

共催

京都大学大学院教育学研究科
教育実践コラボレーション・センター
京大オリジナル株式会社

申込先

<https://www.kyodai-original.co.jp/?p=7791>

申込締切

各回 1 週間前(日曜)まで
(定員に達し次第、締め切ります)



問合せ先

京大オリジナル株式会社 研修講習事業部
Tel: 075-753-7778
E-mail: kensyu@kyodai-original.co.jp

プログラム

	日程	テーマ	講師
第1回	7月5日(日)	「子どもたちの学ぶ権利を保障するとはどういうことか —with コロナの中で—」	石井 英真 准教授 京都大学大学院教育学研究科
第2回	7月19日(日)	「コロナ禍において求められる批判的思考力」	楠見 孝 教授 京都大学大学院教育学研究科
第3回	8月2日(日)	「コロナ禍における心のケア」	西 見奈子 准教授 京都大学大学院教育学研究科
第4回	8月16日(日)	「コロナ禍におけるカリキュラム・マネジメント —パフォーマンス評価をどう活かすか—」	西岡 加名恵 教授 京都大学大学院教育学研究科

14:00～14:10 オープニング

14:10～15:00 講演

15:00～15:10 休憩

15:10～15:30 ブレークアウト・セッション

15:40～16:00 質問に対する応答

◆ご注意ください

- 開催4～5日ほど前に視聴用アドレスをお知らせします。
- 受講対象以外の方(企業の方など)は、ブレイクアウトセッションにはご参加いただけません。予めご了承ください。
- ZOOMの仕様や使い方に関するお問合せにはお答えいたしかねます。
- お客様の環境等が原因で発生した、視聴できないといったトラブルに関しては個別の対応や返金等はございません。予めご了承ください。

コロナ禍において奮闘する先生方のための オンライン・リレー講座 コロナ禍におけるカリキュラム・マネジメント ——パフォーマンス評価をどう活かすか

2020年8月16日
京都大学 西岡加名恵

<自己紹介>

- 教育方法学(カリキュラム論、教育評価論)
- パフォーマンス評価(パフォーマンス課題、ルーブリック)、ポートフォリオ評価法
- アメリカやイギリスの調査、日本の学校の先生方と共同研究開発
- 大学では教員養成の仕事も担当(教育実習指導など)
- 中央教育審議会 初等中等教育分科会 教育課程部会 児童生徒の学習評価の在り方に関するワーキンググループ(2009年6月～2010年3月)、育成すべき資質・能力を踏まえた教育目標・内容と評価の在り方に関する検討会委員(2012年12月～2014年3月) など

1



E.FORUM 2020
全国スクールリーダー育成研修会

**コロナ禍において奮闘する
先生方のためのオンライン・リレー講座**

京都大学大学院教育学研究科 E.FORUMは、広く教育に関心を持っている人びとが集まり、ともに語り合うことを通じて、お互いの教育力を向上させることを目的とした「広場」です。新型コロナウイルス感染症の影響により、社会環境の変化・オンライン授業の展開、子どもたちへのケアなど、多くの先生方が今まで経験されたことのない状況のなかで奮闘されていると存じます。E.FORUMでは、そのような先生方のお悩みを少しでも解決できないかと考え、オンラインによるリレー講座を企画いたしました。先生方のご参加をお待ちしています。

日程 2020年7月5日(日)、19日(日)、8月2日(日)、16日(日)
14:00～16:00

対象 学校・教育委員会関係者、教員志望の学生

定員 300名程度

費用 2,000円(税込)/回 ※クレジットカードのみ
※本研修会以外での入会費の徴収は一切できません。但し、この7条に付します。

配信 ZOOMによるオンラインライブ配信
(インターネット環境が必要です。データ容量 1GB程度)

申込先 京都大学大学院教育学研究科
教育実践・リサーチ・センター
京大エデュケーション・センター
〒606-8501 京都市左区上田町
申込先
http://www.kyodai-original.co.jp/?p=7791
申込先
〒606-8501 京都市左区上田町
申込先
〒606-8501 京都市左区上田町
申込先
〒606-8501 京都市左区上田町

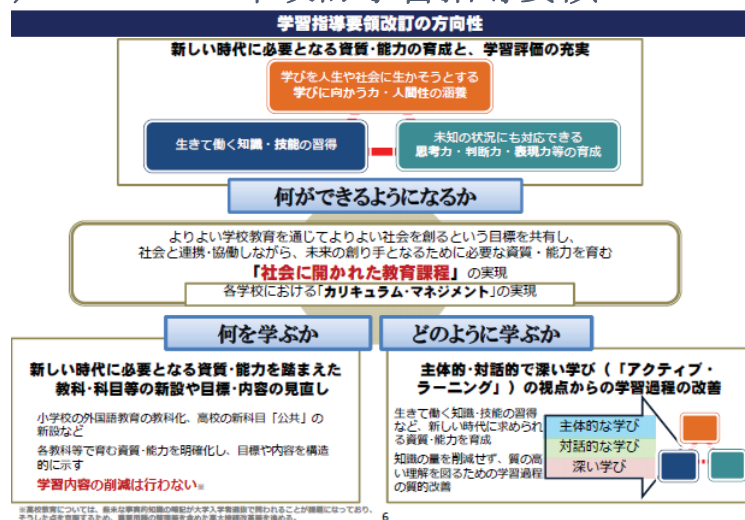
日程	日	テーマ	講師
第1回	7月5日(日)	「子どもたちの学びを保障するとはどういうことか ——with コロナの今——」	石井 英典 准教授 京都大学大学院教育学研究科
第2回	7月19日(日)	「コロナ禍において求められる教員の思考力」	橋本 幸 教授 京都大学大学院教育学研究科
第3回	8月2日(日)	「コロナ禍における心のケア」	高 田 孝子 准教授 京都大学大学院教育学研究科
第4回	8月16日(日)	「コロナ禍におけるカリキュラム・マネジメント ——パフォーマンス評価をどう活かすか——」	西岡 加名恵 教授 京都大学大学院教育学研究科

【今回】

1. カリキュラム・マネジメントとは何か
 2. 教科における学力保障をどう考えるか
 3. 急速に進むICT化をどう考えるか
 4. おわりに
- その他、参考資料

2

1. カリキュラム・マネジメントとは何か (1) 2017・2018年改訂学習指導要領



※資料の作成については、関係する関係者の協力が大学入学者選抜で開かれたことが関係にあり、
そうした点を踏まえるため、関係者の協力を得た大学入学者選抜を定める。

3

(2) カリキュラムの定義の変遷

①「教科課程」(「**教える計画**」:program)

②「教育課程」←curriculumの訳語として成立

↓「隠れたカリキュラム」への注目

↓「総合的な学習の時間」の創設

③カリキュラム(「**学びの履歴**」)

子どもたちが学校でもつ「学習経験の総体」(佐藤学『教育方法学』岩波書店、1996年)

④「**学びの計画と実践**」

「[学校の]教師たちが、子どもたちや青年たちの成長と発達に必要な文化を選択して組織した全体的な学習経験の計画と実践」(西岡加名恵「教育課程(カリキュラム)とは何か」西岡加名恵編著『教育課程』協同出版、2017年、p.8)

※カリキュラムは、教育課程時程表ではない。

4

(3) 教育課程の編成主体

「各学校においては、教育基本法及び学校教育法その他の法令並びにこの章以下に示すところに従い、児童の人間として調和のとれた育成を目指し、児童の心身の発達の段階や特性及び学校や地域の実態を十分考慮して、適切な教育課程を編成するものとし、これらに掲げる目標を達成するよう教育を行うものとする。」

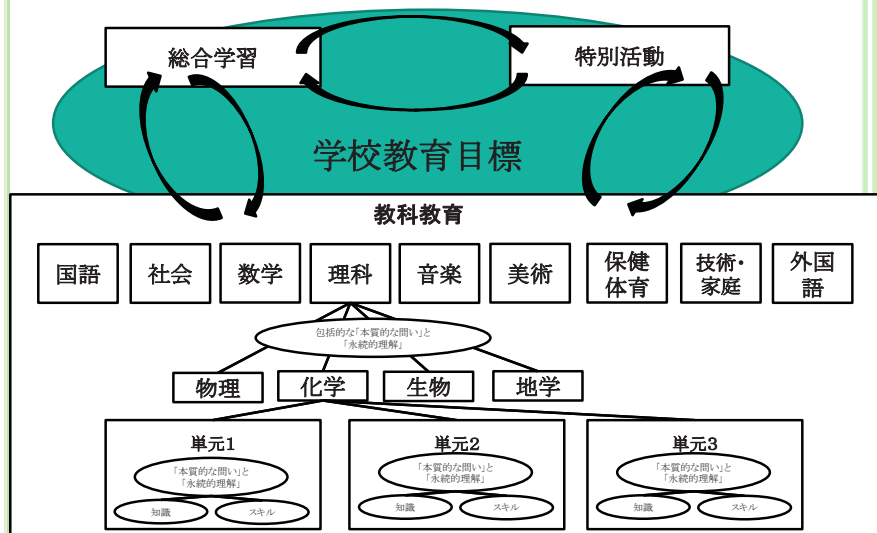
(『小学校学習指導要領(平成30年告示)』2017年。下線は引用者)

(4)カリキュラム・マネジメントの定義

「各学校が、学校の教育目標をよりよく達成するために、組織としてカリキュラムを創り、動かし、変えていく、継続的かつ発展的な、課題解決の営みである。」

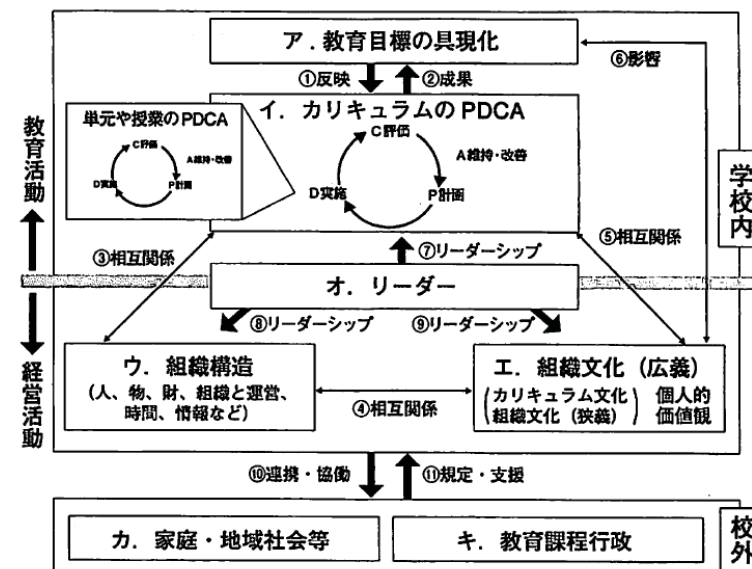
(田村知子編著『実践・カリキュラムマネジメント』ぎょうせい、2011年)

(6)カリキュラム全体の構造図



(西岡加名恵作成)

(5)カリキュラムマネジメント・モデル図



(田村知子『カリキュラムマネジメント』日本標準、2014年、p.16)

(7) 学校のミッションとビジョン



ビジョンの共有(教員-子ども-保護者)

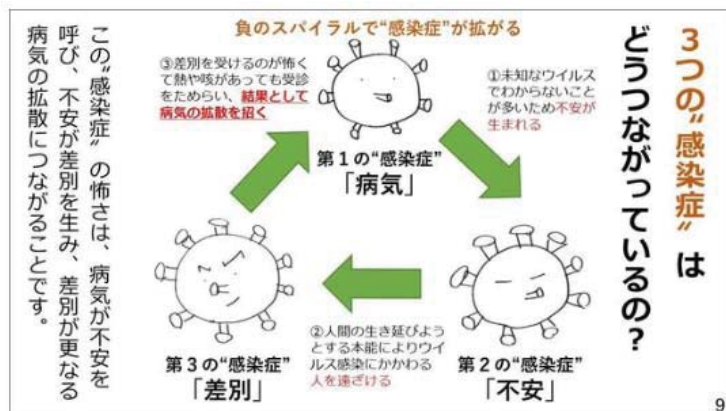
- ・「非常事態」の中で(倒れない範囲で)最善を尽くす。
- ・一人もとりこぼさない。
→一律のルールが公正とは限らない。
- ・見通しを持って体制を整えていく。
- ・カリキュラムのバランスを大切にする。

(西岡加名恵作成)

(8)「ピンチはチャンス」かもしれない

- 「予測困難な時代に、一人一人が未来の創り手となる。」

(中央教育審議会「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)」2016年12月)



(日本赤十字社「新型コロナウイルスの3つの顔を知ろう！～負のスパイラルを断ち切るために～」2020年3月。http://www.jrc.or.jp/activity/saigai/news/200326_006124.html)

9

2. 教科における学力保障をどう考えるか

(1) 授業時数確保の努力

- 「宮城」授業の遅れ解消へ奔走 夏休み短縮・7時間授業...
新型コロナウイルスの感染を防ぐための約3カ月間の休校が終わり、今月から学校が本格的に再開した。各校は授業の遅れを取り戻すために夏休みを短くするだけでなく、1日7時間授業の検討や、子どもたちの心のケア、エアコンの設置にと奔走している。」(「朝日新聞」2020年6月10日)



「新型コロナウイルス感染症 対策のための臨時休業により、学校教育法施行規則に定める標準授業時数を踏まえて編成した教育課程の授業時数を下回ったことのみをもって、学校教育法施行規則に反するものとはされないとされていることも踏まえ、児童生徒や教職員の負担軽減にも配慮すること。」

(文部科学省「新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえた学校教育活動等の実施における『学びの保障』の方向性等について(通知)」2020年5月15日)

10

(2)「逆向き設計」論



(G.ウィギンス/J. マクタイ著、西岡加名恵訳『理解をもたらすカリキュラム設計——「逆向き設計」の理論と方法』日本標準、2012年)



(奥村好美・西岡加名恵編著『「逆向き設計」実践ガイドブック——『理解をもたらすカリキュラム設計』を読む・活かす・共有する』日本標準、2020年)

11

(3) 双子の過ち

※2つのエピソードの共通点は？

◎エピソード①「リンゴの単元」

小学校3年生の子どもたちが、リンゴをテーマとした単元において、様々な活動に取り組んでいる。国語ではリンゴの物語を読み、理科ではリンゴの観察をする。音楽ではリンゴの歌を歌い、美術ではリンゴの絵を描く。リンゴ農園の見学にも行く。締めくくりにはリンゴ祭りをを行い、皆でリンゴ飴を食べる。

◎エピソード②「世界史の教師の苦悩」

学年末が近づき、世界史の先生がパニックに陥る。このままでは、学年末までに、教科書が全然終わらないと気づいたのだ。そこで、いささか後悔しつつも、ラテン・アメリカに関する小単元を省くことにする。また、現代の国際的な出来事に関連するような活動(模擬国連でのディベートなど)を諦める。学年末試験に向けて、早送りの講義モードに切り替えざるをえないのである。

(G.ウィギンス/J. マクタイ著、西岡加名恵訳『理解をもたらすカリキュラム設計——「逆向き設計」の理論と方法』日本標準、2012年参照)

12

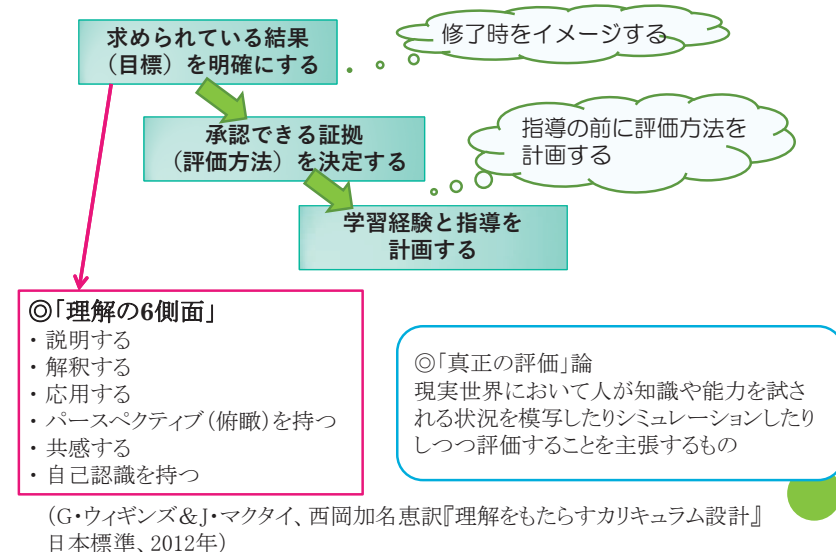
(4)「理解(UNDERSTANDING)」の重要性

- 「双子の過ち」
 - 活動志向と網羅志向
→どちらも「理解」の保障に失敗している。
- 「トピックや教科を理解するとは、知識とスキルを賢明かつ効果的に活用すること……ができるということである。[名詞の]理解とは、理解しようとするものが成功した結果である——つまり、結果として明白ではない観念を把握すること、多くのバラバラな(そしておそらく見たところ無意味な)知識の要素の意味を捉えるようになされた推論である。」

(G.ウィギンズ/J. マクタイ著、西岡加名恵訳『理解をもたらすカリキュラム設計——「逆向き設計」の理論と方法』日本標準、2012年、p.51。下線は引用者)

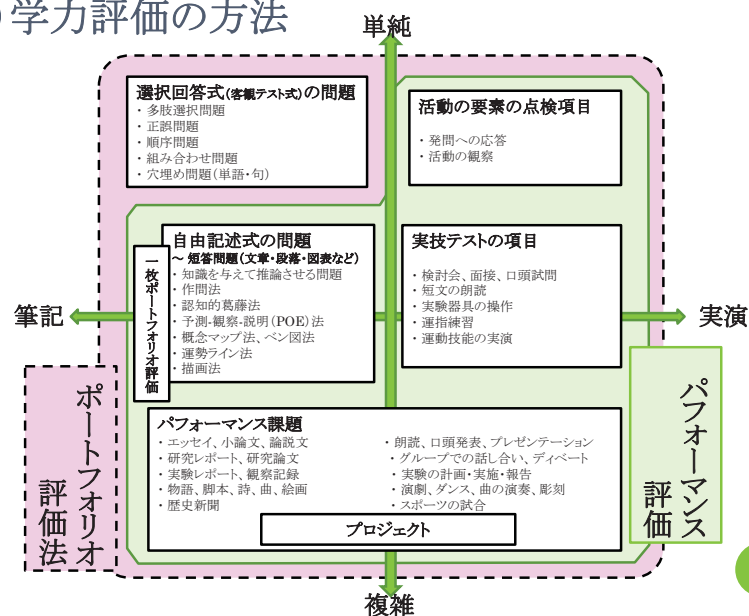
13

(5)「逆向き設計」論



14

(6)学力評価の方法



(西岡加名恵『教科と総合学習のカリキュラム設計』図書文化、2016年、p.83参照)

15

◎パフォーマンス評価とは・・・

- 知識やスキルを使いこなす(活用・応用・総合する)ことを求めるような評価方法(問題や課題)

←学力観の転換

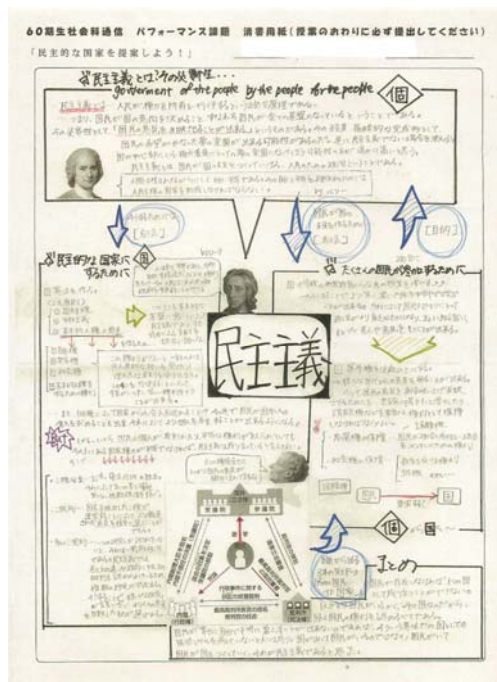
◎パフォーマンス課題とは・・・

- **様々な**知識やスキルを**総合して**使いこなすことを求めるような、**複雑な**課題。
- 具体的には、論説文やレポート、展示物といった**完成作品(プロダクト)**や、スピーチやプレゼンテーション、実験の実施といった**実演(狭義のパフォーマンス)**を評価する課題。

16

◎実践例: 中学校・社会科 「民主的な国家を 提案しよう！」

(三藤あさみ「検討会で関連づけて思考する力を育成する」西岡加名恵・田中耕治編著『「活用する力」を育てる授業と評価・中学校」学事出版、2009年)



17

◎実践例: 高等学校・英語科

「自分の好きな名画紹介」→
(京都府立園部高等学校・当時 光木宏先生提供。
西岡加名恵ほか編著『パフォーマンス評価で生徒の「資質・能力」を育てる』学事出版、2017年参照)



国際文化コースの1人の生徒の変化
(普通科旧 I 類の2年次よりの選択
コース)

※動画: 京都大学オープンコース
ウェアに掲載
(西岡「教育課程論Ⅱ」2014年10月23日)
<http://ocw.kyoto-u.ac.jp/ia/03-faculty-of-education-ip/13-9234001>
(京都府立東舞鶴高等学校
大槻裕代先生提供)



18

◎実践例: 小学校・算数

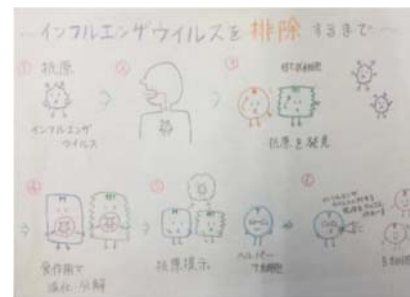
- 高倉の地域には、いろいろな国の方が住んでいます。その方たちが高倉小学校に来られた時にわかるように、英語で「TAKAKURA」と看板をつくることにしました。ですが、色紙を何枚使えばいいかわかりません。色紙はたくさん買うと高いので、台紙に貼る色紙がどれだけ必要か計算することにしました。色紙が何枚必要かを5年2組の友達に分かるように説明しましょう。



(京都市立高倉小学校 谷口紗矢佳先生の
実践。徳島祐彌『5年生算数科『面積』
におけるパフォーマンス評価』『教育方法
の探究』第21号、2018年)

19

◎実践例: 高校・理科



あなたは、中学校に勤める養護教諭です。今日の授業で、インフルエンザにかかると体の中でどのようなことが起きるのか生徒たちに説明する必要があります。説明の方法で紙芝居を使おうと考えました。インフルエンザになったときの体の中で起きている免疫のはたらきを分かりやすく説明する紙芝居を作ってください。時間は、4分以内の紙芝居です。
(池恩雙・西尾泰志「生物基礎——免疫」京都大学大学院教育学研究科E.FORUM『「スタンダード作り」基礎資料集(第2集)』2017年、pp.149-152)

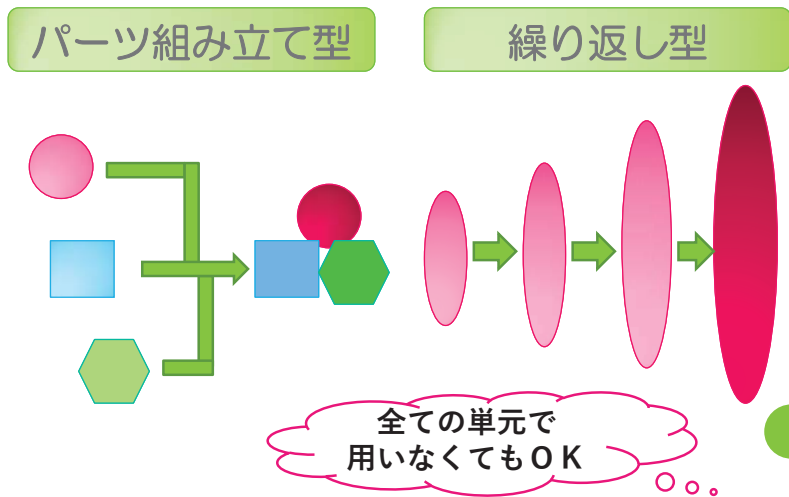


あなたは、製薬会社の研究員です。他社の解熱剤の有効成分と薬中に含まれる添加剤等を調べ、上司に報告することとなりました。各自(班)で実験を計画し、実施して報告してください。
(広島県立広島高等学校 福本洋二先生の実践)

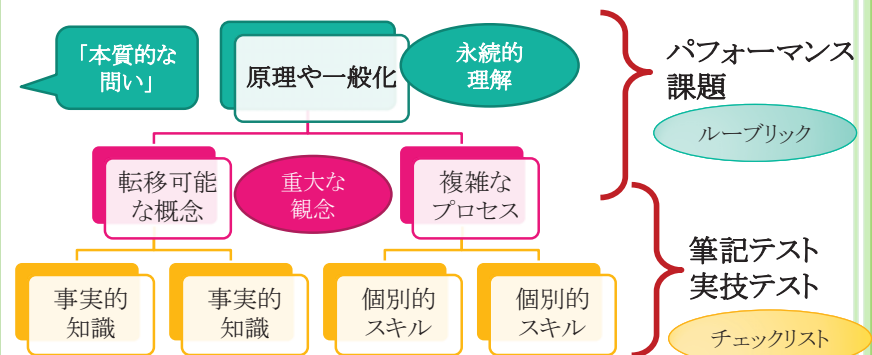
(西岡加名恵編『高等学校における新しい
評価(仮)』学事出版、近刊)

20

◎パフォーマンス課題の位置づけ方 ～単元内・単元間の構造



(7)「知の構造」と評価方法・評価基準



(西岡加名恵)『教科と総合学習のカリキュラム設計——パフォーマンス評価をどう活かすか』(図書文化、2016年、p.82、McTighe, J. & Wiggins, G., *Understanding by Design: Professional Development Workbook*, ASCD, 2004, p.65の図や、Erickson, H.L., *Stirring the Head, Heart, and Soul*, 3rd Ed. Corwin Press, 2008, p.31の図をもとに西岡作成)。G・ウィギンズ/J・マクタイ、西岡加名恵訳『理解をもたらしカリキュラム設計——「逆引き設計」の理論と方法』(日本標準、2012年(も参照))

◎E.FORUM
単元設計
テンプレート
(参考書式)

京都大学大学院教育学部研究科 教育実践研究センター 教育実践研究センター 教育実践研究センター

単元設計テンプレート（参考書式）

年度	西暦	職名	氏名	
	小学校・中学校・高等学校	学級	教科（科目）名	

1	単元・題材名 学習指導要領上の関連内容
2	教材・題材、目標／能力の到達水準

3	思考・判断・表現／態度 【重点目標】 「本質的な問い」 「永続的理解」	知識・技能 【知識・技能】
4	【パフォーマンス課題】	【その他の評価方法】

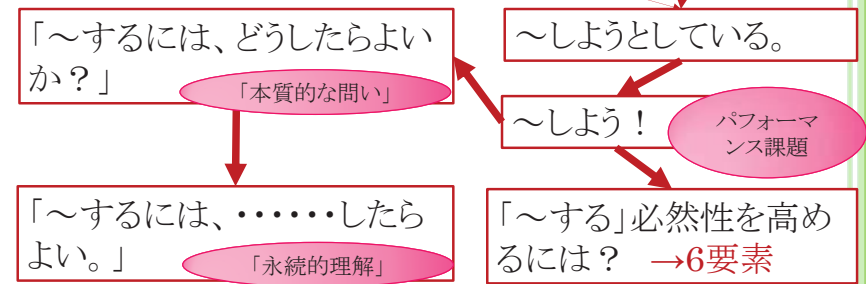
5	評価方法
---	------

6	ルーブリック
---	--------

※E.FORUMのサイトからダウンロードできます。
<https://e-forum.educ.kyoto-u.ac.jp/seika/worksheet/>

◎単元設計：「主体的な学習に取り組む態度」・「思考・判断・表現」の観点に注目する

知識・技能	思考・判断・表現	主体的な学習に取り組む態度
①世代による言葉の違いに気付いている。 (3)ウ)	①「書くこと」において、筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えている。(B(1)イ) ②「書くこと」において、事実と感想、意見を区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。(B(1)ウ)	①粘り強く、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫し、学習の見通しをもって <u>意見文を書こうとして</u> いる。



(8) パフォーマンス課題の作り方

①パフォーマンス課題のイメージを持つ

- まとまった文章を書こう。
 - リーフレットを作ろう。
 - プレゼンテーションをしよう。
 - グループで話し合おう。
 - 学んだ知識・スキルを応用して問題解決に取り組もう。
 - 学んだ知識・スキルを用いて作品を作ろう。
 - 証明しよう。
 - 根拠を示しつつ主張を述べよう。
 - 現象を説明しよう。
 - 実験を実施・計画・報告しよう。
 - 観察記録を書こう。
 - 曲を演奏しよう。
 - パフォーマンスをしよう。
 - 試合をしよう。
 - 企画を立てよう。
- など

25

②「本質的な問い」を明確にする

◎「本質的な問い」の特徴

※教科の中核に位置する重要な内容を看破することを促すような問い

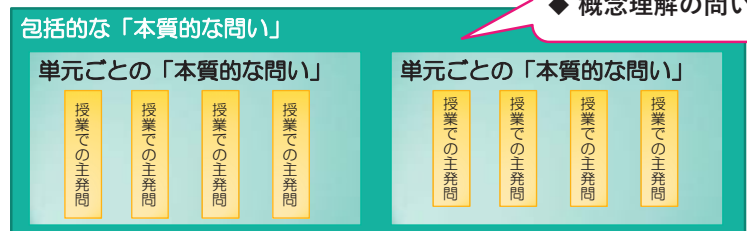
- 単純な一つの答えがない
(論争的、探究を触発、様々な深まり)
- 個々の知識やスキルが総合されていくような問い
- 様々な文脈で活用できるような問い(転移)
- 単元を越えて繰り返し現れるような問い
(再考を促す、転移、カリキュラムの系統性)
- 「だから何なのか? (学習の意義)」が見えてくるような問い
(学問の中核、生活・実践現場との関連性など)

※「どのように～すればよいのか?」(方法論 ⇄ 手順)

※「～とは何か?」(深い概念理解 ⇄ 断片的な知識)

26

◎「本質的な問い」の入れ子構造



◎包括的な「本質的な問い」の例

国語・英語

- どのようにコミュニケーションをすれば良いのか?
- どのように書けば／読めば／話せば／聞けば／話し合えば良いのか?
- この〇〇の主題／教訓は何か?

社会、地歴・公民

- より良い社会(政治・経済)をつくるには、どうすれば良いのか?
- 人びとは、どのような地理的条件のもとで暮らしているのか? それはなぜか?
- 社会は、どのような要因で変わっていくのか?

27

◎包括的な「本質的な問い」の例

数学

- 現実の問題を数学的に解決するには、どうすれば良いのか?
- どのように量を測れば良いのか?
- 自然や社会にある数量の関係を捉え、未知の数量を予測するにはどうすれば良いのか?

理科

- 自然の事物や現象は、どのような仕組みになっているのか?
- 科学的に探究するには、どうすれば良いのか?

音楽・美術

- 美とは何か?
- 様々なイメージや感情、思いやメッセージは、どのように表現すれば良いのか?

保健体育

- どうすれば、心身の発達と健康の保持増進を図ることができるのか?
- どうすれば、上手に運動できるのか?

技術・家庭

- どのように技術を用いればよいのか?
- どうすれば、より望ましい生活を創造できるのか?

28

③「永続的理解」を明文化する

◎「永続的理解(原理・一般化)」は必ず完全な文(「～は、～である。」)として書く。

●「～とは何か？」

→「～とは、……である。」

×「～とは何かがわかる。」

<例> ×「民主主義とは何かがわかる。」

○「民主主義とは、人民の、人民による、人民のための政治形態である。民主的な国家とは、国民の基本的な人権が守られる国家であり、その国民が政治に参加して意思決定がなされる国家である。」

●「～するには、どうすればよいか？」

→「～するには、……するとよい。」

×「～することができる。」

<例> ×「うまく伝えることができる。」

○「うまく伝えるためには、まず、伝える目的と相手を踏まえて、自分が伝えたいことを明確にすることが重要である。説得力を持たせるためには、根拠や具体例を示すと良い。」

29

④パフォーマンス課題のシナリオ作りの6要素(GRASPS)

- な—何が目的(Goal)か？
- やン—(学習者が担う)役割(Role)は何か？
- だナ—誰が相手(Audience)か？

アア

- そ—想定されている状況(Situation)は？
- う—生み出すべき完成作品・実演(Product, Performance)は？
- か—(評価の)観点(Standard, criteria)は？

※必ずしも使わなくてもOK

誰かのために、何かする課題。
楽しくて、やりがいがある課題。

(西岡加名恵『教科と総合学習のカリキュラム設計』図書文化、2016年、p.97参照)

30

(例)課題:「意見文を書こう！」

「本質的な問い」

「意見文を書くにはどうしたらよいのか？」

「永続的理解」

意見文を書くには、まず、自分が相手に伝えたい意見を明確にすることが重要である。また、より説得力をもって伝えるためには、根拠となるような事実と意見とを関連づけながら書くと良い。さらに、最初に相手を惹きつけるような工夫をし、最後に自分の意見を明文化して示すといった構成にすると、相手に伝わりやすくなる。

課題のシナリオの6要素

目的(Goal): ゴミ問題の解決をめざす

役割(Role): 4年生

相手(Audience): 学校の他の子どもたち

状況(Situation):

学んだことをもとに意見を伝える

作品(Product, Performance):
壁新聞の記事

観点(Standard, criteria):

意見が明確になっているか

説得力のある根拠が示されているか

「真正の評価」;リアルな状況も色々

→実生活

→職業生活(数学者、芸術家……)など

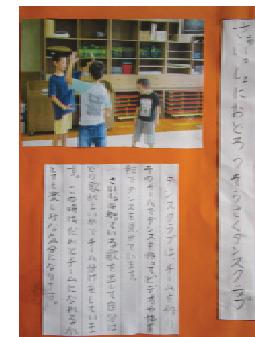
31

(9)「逆向き設計」で、なぜ余裕が生まれるのか

- 魅力的で必然性の高い課題 → 学習意欲の高まり
- 「真正の評価」 → 教科横断的な視点を入れやすい

◎実践例: 小学校・国語

「クラブPR隊になって、3年生にクラブ活動の様子を伝えよう」



(京都市立梅小路小学校 山口信也先生の実践)

32

(9)「逆向き設計」で、なぜ余裕が生まれるのか

○ 指導のチャンスが繰り返しやってくる

(宮本浩子先生提供。堀哲夫・西岡加名恵著『授業と評価をデザインする理科』日本標準、2010年参照)



「本質的な問い」の入れ子構造

理科：身の回りの事象や自然現象は、どのような仕組みになっているのだろうか？
それらについて、どのように探究すればよいのだろうか？

季節による生物の変化を捉えるために、春の生物をどのように観察すればよいのだろうか？

○○○

季節による生物の変化を捉えるために、夏の生物をどのように観察すればよいのだろうか？

○○○

季節による生物の変化を捉えるために、秋の生物をどのように観察すればよいのだろうか？

春の生物の観察

○○○

夏の生物の観察

○○○

秋の生物の観察

核となるパフォーマンス課題

33

(9)「逆向き設計」で、なぜ余裕が生まれるのか

○ 定着率が高い(「剥落」しづらい)

◎実践例：高校 地歴科

単元「地中海世界の形成とオリエントとの融合」

「あなたは古代地中海世界を研究する歴史学者です。ローマは都市国家から発展しました。同じく都市国家から発展したアテネやスパルタなどのギリシアの諸ポリスの覇権は地中海沿岸に留まったにもかかわらず、ローマは帝国化し、その覇権は地中海周辺の広大な地域まで広がりました。このような史実がありながら、なぜローマ帝国はギリシアのポリスとは異なり、広大な地域にまで拡大したのかという問題についてはいまだ諸説あり、明らかになっていません。歴史学者としてこの問題を考えるとき、あなたはどのような説を唱えますか。」

←「歴史において、ある国家や社会の盛衰に影響を及ぼす

諸要因は何であったのか？」

(京都市立堀川高等学校 村井昂介先生の実践。市川和也「高等学校世界史Bにおけるパフォーマンス課題を取り入れた授業実践」『教育方法の探究』第22号、2019年、pp.69-78)

34

E.FORUMは、広く教育に関心を持つ人々の「広場」です。

E.FORUMは、広く教育に関心を持っている人々が集まり、ともに語り合うことのできる教育方法を向上させることを目的とした「広場」です。

学ぶ喜びを感じ、賢明に判断し行動できる子どもたちの育成に役立ちたいと願っています。

パフォーマンス評価について説明する動画が見られます。

教科別に様々な事例を紹介しています。

<https://e-forum.educ.kyoto-u.ac.jp/seika/>

35

京都大学大学院教育学研究科
E.FORUM 2020
全国スクールリーダー育成研修

オンラインコース
「教育評価の基礎講座」2020

1. 各回ごとに配信される講義をオンラインで視聴し、ご自宅などご自身の好みの時間帯、好きな時間に学習していただけるコースです。本コースでは、教育評価の基本的な考え方と進め方を学びます。今年度は昨年度から1講義追加し、全6講義を配信いたします。忙しい方や遠方の方、また今までの復習をしたい方にお勧めです。

日程 2020年9月から2021年2月まで
毎月配信(全6回の講義)

対象 学校・教育委員会の関係者、学生など(定員なし)

受講料 8,000円(税込) ※銀行振込またはPaypal
※振込先等の詳細については、お申込み受付の際に事務局からお送りするメールにてお知らせいたします。
※本学都合以外での入金後の返金は一切できません。何卒ご了承くださいませ。

開催先 インターネット

共催 京都大学大学院教育学研究科
教育実践コアポリューション・センター
京大オリジナル株式会社

協力 京都大学高等教育研究開発推進センター

申込先 <https://www.kyodai-original.co.jp/?p=7858>

申込締切 8月31日(月)

問合せ先 京大オリジナル株式会社 研修・講習事業部
Tel: 075-753-7778
E-mail: kensyu@kyodai-original.co.jp

プログラム	配信開始日	内容	詳細
第1回	9月16日(水)	「2017・2018年改訂学習指導要領の特徴」 西岡加名恵 教授	「資質・能力」、アクティブラーニング、「見方・考え方」、パフォーマンス評価といったキーワードを解説します。
第2回	10月14日(水)	「目標に準拠した評価」の基本的な考え方 西岡加名恵 教授	指導要録変遷の歴史を振り返るとともに、「目標に準拠した評価」の意義と課題を確認します。
第3回	11月18日(水)	「パフォーマンス課題の作成」 西岡加名恵 教授	「逆向き設計」論に基づくパフォーマンス課題の作り方について、ステップ・バイ・ステップで学びます。
第4回	12月16日(水)	「ルーブリックとポートフォリオの活用」 西岡加名恵 教授	ルーブリックやポートフォリオの作り方、ならびに活用の仕方について解説します。
第5回	1月20日(水)	「2019年改訂学習指導要録のポイント」 石井英真 准教授	「児童生徒の学習評価の在り方について(報告)」(2019年1月)の要点を説明します。
第6回	2月17日(水)	「学校ぐるみの授業改善の進め方」 石井英真 准教授	授業づくりの基本的な考え方とともに、学校ぐるみで授業改善に取り組む校内研修等のあり方についても解説します。

※各回1時間程度の講義と、ミニテスト(自動採点)で構成されています。 ※各地点に達した方に修了証を発行いたします。
※第1回～第5回は、昨年度に実施したものと同一内容です。 ※第6回は今年度の「実践づくりフォローアップ講座」のオンライン講義と同じ内容です。

36

3. 急速に進むICT化をどう考えるか

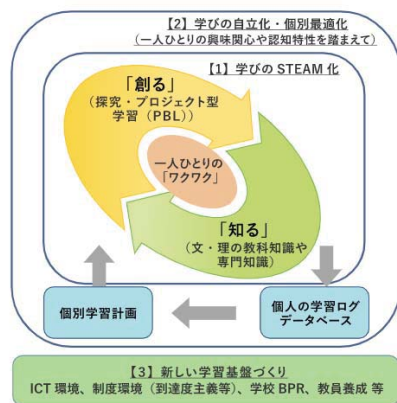
(1) 経済産業省「未来の教室」

- 『「未来の教室」とEdTech研究会」(2018年1月～2019年6月)

→実証事業を公募

(<https://www.learning-innovation.go.jp/about/>)

「未来の教室」が目指す姿



(2) 補正予算の閣議

決定(2019年12月)

児童生徒1人に1台の端末と、高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備するための経費が盛り込まれる。

37

(3) 文部科学省「GIGAスクール構想」



(https://www.mext.go.jp/content/20200625-mxt_syoto01-000003278_1.pdf)

GIGAスクール構想の加速による学びの保障

追補版

目的 「1人1台端末」の早期実現や、家庭でも繋がる通信環境の整備など、「GIGAスクール構想」におけるハード・ソフト・人材を一体とした整備を加速することで、災害や感染症の発生等による学校の臨時休業等の緊急時においても、ICTの活用により全ての子どもたちの学びを保障できる環境を早急に実現

令和2年度補正予算額 2,292億円

(https://www.mext.go.jp/content/20200625-mxt_syoto01-000003278_2.pdf)

38

(4) ICT活用の例

- 同時双方向型のテレビ会議システム → 距離を超えて、双方向で授業できるという点で魅力的。ただし、データ通信容量、疲労感の問題がある。回線が不安定で切れてしまうことも。
- 一方向の動画配信 → 講義型の授業のイメージ。非同期型なので、視聴者が見る時間と場所を選べる。
- 学校のHP → 各学校から文字や写真・動画の情報が発信できる。ただし、一方向。
- 授業・学習支援システム(LMS) → 先生方から「お知らせ」を流したり、「課題」を指示したり、必要な「資料」を提供したり、子どもから「提出物」を提出させたり、子ども同士が「掲示板」で交流したり、といった機能を持っているシステム。同期型ではなく、主に文字ベースになりますが、双方向のやりとりができる。
- クラウド(共有フォルダ) → 複数人でファイルを共有できる。
- 問題集タイプ → ドリルなど。ものによっては自動採点機能付き。
- 思考ツールのタイプ → 付箋紙を使ったワークショップなどをPC・ネット上でできる。

39

◎WITH コロナの時代におけるセーフティネット

◎教育の質を改善する可能性

◎教師の働き方改革にもつながる可能性



(5) 今後の課題

▲ノウハウや人材(ICT支援員など)の圧倒的不足

- 大学における授業のオンライン化の場合
 - 隙間時間で頻繁に研修を提供 → 基本的な理解の共有
 - メール通信 → その時々での情報提供
 - サポートサイトの構築 → 研修やメール通信の内容を集約
 - ICT支援員とオンライン化サポート教員 → 個別対応

※支援体制づくりが重要。

(PTAなどの支援を求めているのでは?)

40

※使えるものは使うという発想も。



伝達・提示型
演習型
展示・発表会型



(https://e-forum.educ.kyoto-u.ac.jp/for_children/)

41

◎課題「理科調査員としてのミッション！」

休校が続いている間にも、季節はどんどん移りかわっています。休校が始まった3月に比べ、随分、日が長くなりましたね。季節によって、植物はどのように変化するのでしょうか。それを調べるのが、皆さんの今年度のミッションです！先生から指示されるタスクを1つ1つクリアして、季節による植物の変化の秘密を見つけよう！

● タスク1: 種の観察をして、記録をつけよう！

- 記録用紙の作り方をマスターしよう
- 虫眼鏡の使い方をマスターしよう
- 種を観察して、観察記録を書いてみよう
- 種について、見つけた秘密を書いてみよう
- ※ お助け動画を見てもOKだよ～！

(西岡加名恵)

★お勧め:

NHK for School ← 伝達・提示型

→ 「ふしぎエンドレス」「ふしぎがいっぱい」

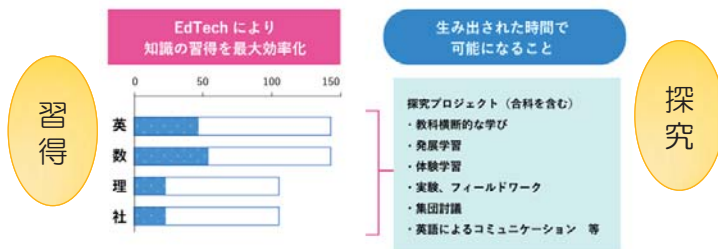
宇都宮大学共同教育学部附属小学校 ← 演習型

→ <http://www.edu.utsunomiya-u.ac.jp/fsight/elementaryschool/corona.html>

42

(5) 今後の課題

▲「ICTなら何でも良い」というわけではない。



(「未来の教室」<https://www.learning-innovation.go.jp/about/>)

→ 「学びの自己責任論」として批判(児美川孝一郎)

(<https://www.kyoto-minpo.net/archives/2020/08/13/post-25366.php>)

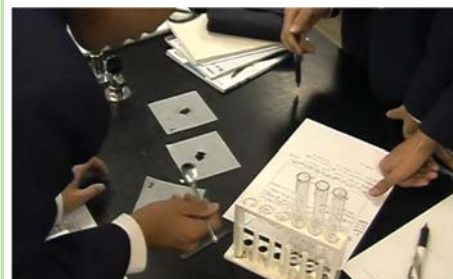
◎学習の「質」を見る視点が重要

「活用」は？

- 教科の「本質」についての「深い理解」は保障されるのか？
- 「真正性」からの乖離は生じないのか？
- 「個別最適化」の強調 → 「協同性」は？

43

◎協同的な学びの重要性



(井上典子先生提供。堀哲夫・西岡加名恵著『授業と評価をデザインする理科』日本標準、2010年、p.186)



(三藤藤あさみ・西岡加名恵『パフォーマンス評価にどう取り組むか——中学校社会科のカリキュラムと授業づくり』日本標準、2010年)

44

(5) 今後の課題 ◎授業の基本形



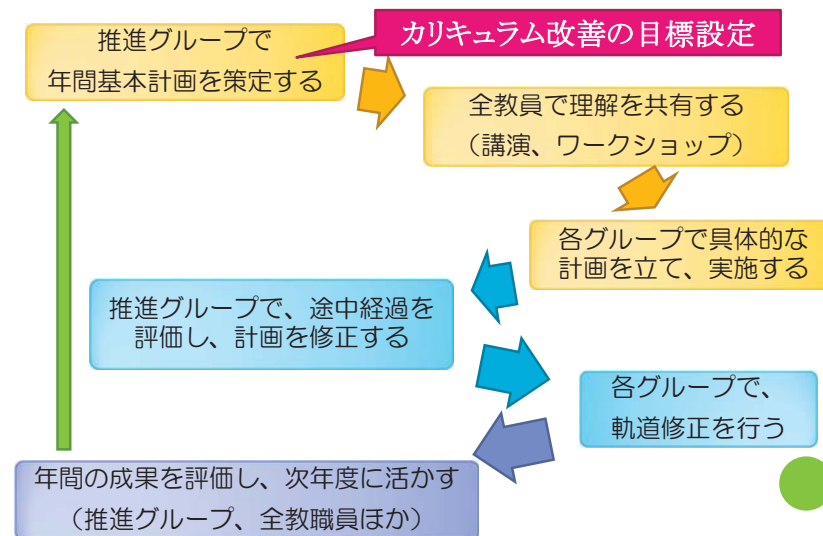
(京都大学高等教育研究開発推進センター「Teaching Online」を参照して西岡加名恵作成)

▲教育費をどう配分するか？

45

4. おわりに

(1) カリキュラム改善・改革のための基本的な流れ



46

(2) 教師の時間も有限のリソース

- ポジティブなビジョンを持つ。
- 実行可能なプランを立てる。
- 実行可能な体制・仕組みを整える(条件整備をする)。

Cf. 「働き方改革」をどう進めるか

- 庄子寛之・養手章吾・館野峻『before & after でわかる！ 研究主任の仕事 アップデート』明治図書、2020年
- 中村浩二『全職員が定時で帰る スクールリーダーの職員室革命』明治図書、2020年
→『意識改革』『業務改善』によって生み出された時間を大切にしながら、自己研鑽に励んだり、休養を十分に取ったりすることができるようにし、子どもたちのために最高のパフォーマンスを発揮できるようになる。」

47

(3) 学力評価計画の立て方

◎“三次元モデル”

観点	評価方法	単元1	単元2	...	単元X	単元Y	総括的評価
主体的に学習に取り組む態度							
思考力・判断力・表現力	パ課題		○		◎		到達レベル(質)
知識・技能	筆記／実技 — テスト	○	○		○	○	到達レベル(量)

類似の課題を少しずつレベルアップしながら繰り返して与える。

ルーブリック

チェックリスト

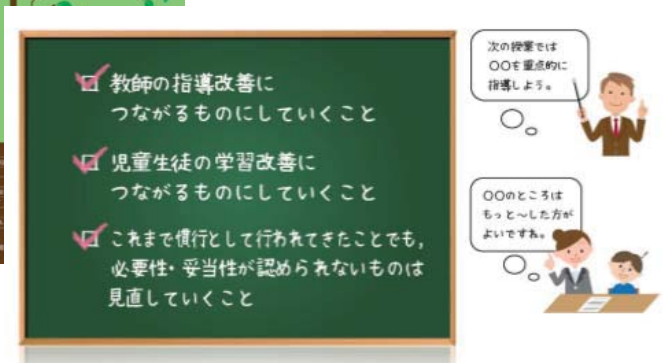
※ポートフォリオに学習履歴を残す、という方法も考えられる。

48



◎国立教育政策研究所 「学習評価の在り方ハンドブック」 (2019年6月14日)

(<http://www.nier.go.jp/kaihatsu/shidousiryou.html>)



49

観点別評価の評価時期

- 単元や題材のまとまりごと × 毎回の授業
- 複数の単元や題材などにわたって長期的な視点で評価することも可能

Q1 1回の授業で、3つの観点全てを評価しなければならないのですか。

A. 学習評価については、日々の授業の中で児童生徒の学習状況を適宜把握して指導の改善に生かすことに重点を置くことが重要です。したがって観点別学習状況の評価の記録に用いる評価については、毎回の授業ではなく原則として単元や題材などの内容や時間のまとまりごとに、それぞれの実現状況を把握できる段階で行うなど、その場面を精選することが重要です。

評価時期の工夫の例

- 日々の授業の中では児童生徒の学習状況を把握して指導に生かすことに重点を置きつつ、各教科における「知識・技能」及び「思考・判断・表現」の評価の記録については、原則として単元や題材などのまとまりごとに、それぞれの実現状況が把握できる段階で評価を行う。
- 学習指導要領に定められた各教科等の目標や内容の特質に照らして、複数の単元や題材などにわたって長期的な視点で評価することを可能とする。

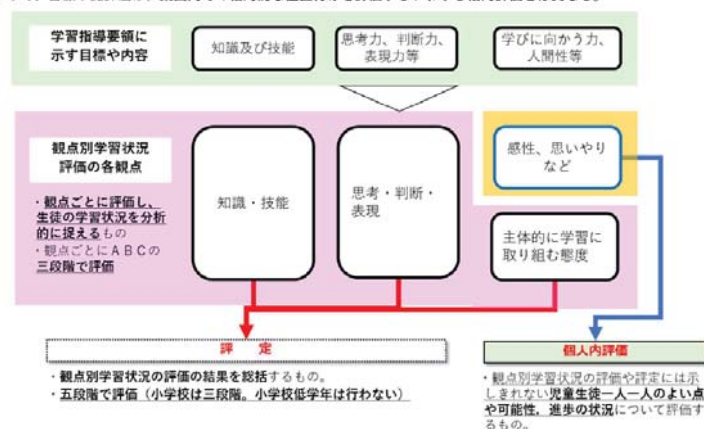
(国立教育政策研究所「学習評価の在り方ハンドブック(小・中学校編)」2019年6月14日)

50

CF.「主体的に学習に取り組む態度」の評価

各教科における評価の基本構造

- ・各教科における評価は、学習指導要領に示す各教科の目標や内容に照らして学習状況を評価するもの(目標準拠評価)
- ・したがって、目標準拠評価は、集団内での相対的な位置付けを評価するいわゆる相対評価とは異なる。



※この図は、現行の取扱いに「答申」の指摘や新しい学習指導要領の趣旨を踏まえて作成したものである。

(中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会「児童生徒の学習評価の在り方について(報告)」2019年1月21日)

51



「主体的に学習に取り組む態度」は、「関心・意欲・態度」と同じ趣旨ですが…
～こんなことで評価をしていますが…でしたか？～

平成31年1月21日文科科学省中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会「児童生徒の学習評価の在り方について(報告)」では、学習評価について指摘されている課題として、「関心・意欲・態度」の観点について「学校や教師の状況によっては、挙手の回数や毎時間ノートを取っているかなど、性格や行動面の傾向が一時的に表出された場面を捉える評価であるような誤解が払拭し切れていない」ということが指摘されました。これを受け、従来から重視されてきた各教科等の学習内容に関心をもつことのみならず、よりよく学ぶよう意欲をもって学習に取り組む態度を評価するという趣旨が改めて強調されました。

「評価の観点のうち『主体的に学習に取り組む態度』については、学習前の診断的評価のみで判断したり、挙手の回数やノートの取り方などの形式的な活動で評価したりするものではない。」(中央教育審議会「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)」2016年12月21日)

「主体的に学習に取り組む態度」の評価

具体的な評価方法としては、ノートやレポート等における記述、授業中の発言、教師による行動観察や、児童生徒による自己評価や相互評価等の状況を教師が評価を行う際に考慮する材料の一つとして用いることなどが考えられます。その際、各教科等の特質に応じて、児童生徒の発達段階や一人一人の個性を十分に考慮しながら、「知識・技能」や「思考・判断・表現」の観点の状況を踏まえた上で、評価を行う必要があります。

52

「主体的に学習に取り組む態度」の評価のイメージ

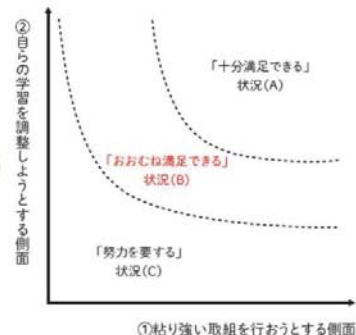
○「主体的に学習に取り組む態度」の評価については、①知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行うおうとする側面と、②①の粘り強い取組を行う中で、自らの学習を調整しようとする側面、という二つの側面から評価することが求められる。

○これら①②の姿は実際の教科等の学びの中では別々ではなく相互に関わり合いながら立ち現れるものと考えられる。例えば、自らの学習を全く調整しようせず粘り強く取り組み続ける姿や、粘り強さが全くない中で自らの学習を調整する姿は一般的ではない。

ここでの評価は、その学習の調整が「適切に行われるか」を必ずしも判断するものではなく、学習の調整が知識及び技能の習得などに結びついていない場合には、教師が学習の進め方を適切に指導することが求められる。

「自らの学習を調整しようとする側面」とは…

自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなどの意思的な側面のことです。評価に当たっては、児童生徒が自らの理解の状況を振り返ることができるような発問の工夫をしたり、自らの考えを記述したり話し合ったりする場面、他者との協働を通じて自らの考えを相対化する場面を、単元や題材などの内容のまとまりの中で設けたりするなど、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を図る中で、適切に評価できるようにしていくことが重要です。



【参考1】ワーク1:パフォーマンス課題の検討

- 既に、パフォーマンス課題に類する課題を与えておられる場合、その課題を「逆向き設計」論の枠組みに照らして検討するワークショップもお勧めです。
- ＜参考資料＞として、「ワークショップの手引き:パフォーマンス課題の検討」と「ワークシート:パフォーマンス課題を考えてみよう」を準備しましたので、よろしければ校内研修などでご活用ください。
- 「ワークシート:パフォーマンス課題を考えてみよう」は、パフォーマンス課題づくりのワークショップでも使えます。

【参考2】ワーク2:ループリック作り

(1) ループリックとは何か (ここではレベル2・4を省略)

	原理・一般化に関する理	観点 (分けなくても可)
5	社会的な事象について、政治・経済・文化・地形などの構成要素から3つ以上の視点ができる。これらの視点を総合的に関連付けて、多角的に分析し、最適で詳細かつ具体的な根拠をあげて、非常に説得力のある主張を組み立てる。	記述語 (基準と徴候)
3	社会的な事象について、政治・経済・文化・地形などの構成要素から2つ以上の視点ができる。これらの視点を関連づけて、具体的な根拠をあげて明確な主張を述べるができる。	アンカー作品 を添付
1	社会的な事象について、政治・経済・文化・地形などの構成要素から1つの視点ができる。この視点を基に、具体的な根拠をあげて主張を述べる。	尺度 (数レベル程度)

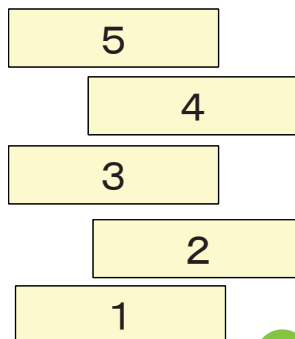
(2) 特定課題ループリックの作り方 「手引き」①テンプレート

レベル	作品NO	記述語
5 素晴らしい		まず、作品NOの配置を 確定する。 →アンカー作品
4 良い		チェックリストとの 違いに留意する。
3 合格		
2 もう一歩		
1 かなり改善が必要		「ワークショップの手引き」と「ワークシート」を準備しましたので、よろしければご活用ください。

④お互いの採点がわからないように、作品を採点する。

→付箋紙に作品番号とレベルを書く。

→作品の裏面に貼る。



⑤付箋紙を作品の表面に貼り直す。

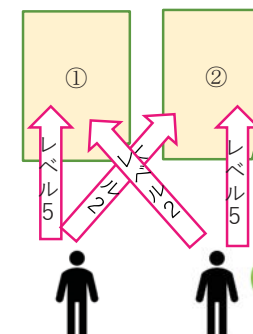
57

⑥⑦似た評点がついた作品を集め、特徴について話し合う。

→まず、評価の（ほぼ）一致した作品について、レベルを確定。特徴を読み取って、記述語を作成。

⑧評価が分かれた作品について、検討。

→評価が入れ替わる場合に、観点を分ける。



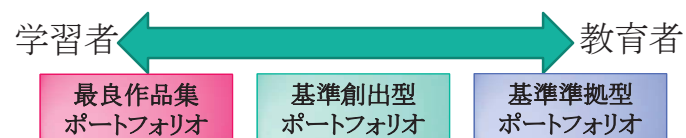
58

【参考3】ポートフォリオ評価法

(1) ポートフォリオ評価法とは何か

- ポートフォリオ：学習者（児童・生徒や学生）の作品や自己評価の記録、教師の指導と評価の記録などを系統的に蓄積していくもの
- ポートフォリオ評価法：ポートフォリオ作りを通して、学習者が自らの学習のあり方について自己評価することを促すとともに、教師も学習者の学習活動と自らの教育活動を評価するアプローチ

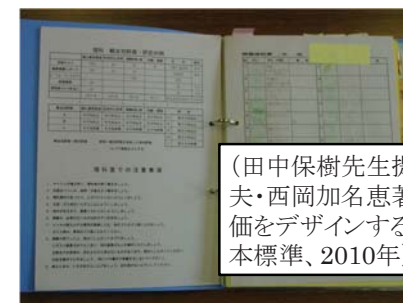
(2) 所有権 (Ownership) : 収める作品や評価基準の決定権



59

(3) 日本での実践例

（宮本浩子・西岡加名恵・世羅博昭『総合と教科の確かな学力を育むポートフォリオ評価法・実践編』日本標準、2004年）



（田中保樹先生提供。堀哲夫・西岡加名恵著『授業と評価をデザインする・理科』日本標準、2010年）

60

(4) 取り組む上でのポイント

- ① 学習者と教師で見通しを共有する。
 - なぜ、作るのか？ 意義は何か？
 - 何を残すのか？
 - いつ、どの期間で作るのか？
 - どう活用するのか？
- ② 蓄積された作品を、編集する(整理・取捨選択する)。
 - ワーキング・ポートフォリオからパーマネント・ポートフォリオへ必要な作品を移す。
 - 検討会で見せる作品を選ぶ。
 - 目次を作り、「はじめに」と「終わりに」を書く。
- ③ 定期的にポートフォリオ検討会を行う。
 - 見通しを持つ。
 - 到達点と課題、次の目標を確認する。
 - 成果を披露する。

61

(5) ポートフォリオ検討会



↑宮本浩子先生提供。宮本浩子・西岡加名恵・世羅博昭『総合と教科の確かな学力を育むポートフォリオ評価法・実践編——「対話」を通して思考力を鍛える!』日本標準、2004年参照

西岡加名恵・石井英真・川地亜弥子・北原琢也『教職実践演習ワークブック——ポートフォリオで教師力アップ』ミネルヴァ書房、2013年参照→



62

◎検討会の進め方

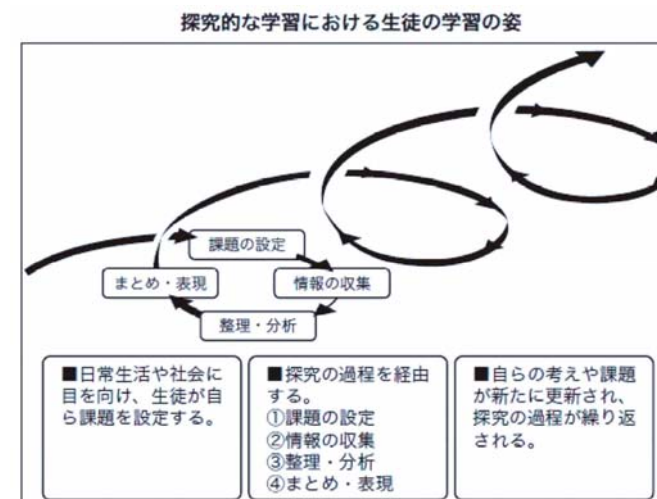
- ① 問いかけによって、学習者の自己評価を引き出す。
- ② 学習者の言葉に耳を傾ける(待つ)。
- ③ 達成点を確認し、いいところを褒める。
- ④ 具体例の比較を通して、目標・評価規準(基準)を直観的につかませる。
- ⑤ 次の目標について、合意する。
- ⑥ 確認された達成点と課題、目標についてメモを残す。

※一斉授業(作品批評会など)の形で行うのもOK

63

(6) 探究的な学習

→「問題解決のサイクル」の繰り返し



(文部科学省『中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編』2008年、p.16)

64

◎検討会での対話(イメージ)

先生「山田さんは、ペットボトルロケットについて調べているんだよね。進捗はどう？①」

生徒「あんまり良く進んでいないんです。なんだか行き詰まっている感じで……。」

先生「どんなところに行き詰まっているのかな？②」

生徒「ん～[しばらく沈黙。教師は待つ③]。何をしたら良いのかよくわからなくなって……、ペットボトルロケットをただ飛ばしているだけのようで……。」

先生「山田さんは、テレビで見て、よく飛ぶペットボトルロケットが作れたら、エコな仕組みを考えられそう、と思ったんだっけね。今まで、どんなことに取り組んできたのかな？④」

二人で研究ノートに書かれた内容について振り返る。

生徒「先行研究を読んでみると、遠くに飛ばすために羽やペットボトルの形、羽の位置や空中での回転の仕方が影響すると書いてあるんですが、僕のロケットはいつも空中で水平飛行にならず、飛距離も出なくなってしまうんです。」

先生「山田さんは、何回もペットボトルロケットを飛ばしながら空中での機体の傾きや羽の形との関係について既にキチンとしたメモを残しているね。これは素晴らしいことだよ⑤。どんな工夫をすれば、水平飛行になりそうかな？」

生徒「まずは、羽の位置と形かなあ……。でも、よく飛ぶって書いてある本を片っ端から見て羽の形は変えたりしているけど、よくわからなくなっちゃった。」

先生「羽の形を飛行機や鳥の翼、実際のロケットの仕組みを参考にしてみると面白いものができるだね。なぜその羽の形や位置で良く飛ぶのかという仕組みを考えてみたらどうかな？ そのときには、ロケットの重心や回転にこだわってみてもよいかもしれないね⑥。」

生徒「そういうことなら、何とかできそうかな⑦。」

二人は話し合った内容についてメモを残す⑧。

(西岡加名恵編『高等学校における新しい評価(仮)』学事出版、近刊)

65

(7) 高大接続システム改革会議「最終報告」(2016年3月)

大学入学
共通テスト

高校生の
ための
学びの
基礎診断

ア 大学入学希望者学力評価テスト(仮称)の結果 イ 自分の考えに基づき論を立てて記述させる評価方法 ウ 高校時代の学習・活動歴 ・調査書 ・活動報告書(個人の多様な活動、ボランティア・部活動・各種団体活動等) ・各種大会や顕彰等の記録 ・資格・検定試験の結果 ・推薦書等 エ エッセイ、大学入学希望理由書、学修計画書 オ 面接、ディベート、集団討論、プレゼンテーション	右の三要素を左のような方法で評価 ①知識・技能 ②思考力・判断力・表現力 ※①を基礎にして答が一つに定まらない問題に自ら解を見出していく思考力・判断力・表現力等の能力 ③主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度
---	--

66

CF. 京都大学教育学部の特色入試

<第1次選考>書類選考

「学びの報告書」「学びの設計書」

平成28年度京大教育学部特色入試

教育学部用

学びの報告書

氏名

学号

以下に示す項目について、活動報告書が提出された場合はその内容を基に記入してください(記入しなくても構いません)。

【1】中学時代から現在まで(あるいは高校時代から現在まで)の学習や研究活動の経緯、活動、その成果を示す資料(活動報告書、論文、研究発表資料、新聞記事等、いずれもコピー(A4程度)にて可。)を添付する場合は、対応する資料番号を明記してください。

資料番号	添付資料	添付枚数



<第2次選考>

課題と口頭試験

<第3次選考>

センター試験

「様々な活動をまとめてみることで、活動の間にあったつながりや自分の特長に気づきました」(大平優斗さん)、「自分が達成できたことや自分の価値観の変化にも気づき、将来、挑戦したいことを思い描くことができました」(小山田遥さん)

67

<主要参考文献>

- ① 西岡加名恵『教科と総合に活かすポートフォリオ評価法』図書文化、2003年
- ② G.ウィギンズ、J.マクタイ(西岡加名恵訳)『理解をもたらしカリキュラム設計——「逆向き設計」の理論と方法』日本標準、2012年
- ③ 西岡加名恵・石井英真・田中耕治編著『新しい教育評価入門』有斐閣、2015年
- ④ 西岡加名恵『教科と総合学習のカリキュラム設計——パフォーマンス評価をどう活かすか』図書文化、2016年
- ⑤ 西岡加名恵編著『「資質・能力」を育てるパフォーマンス評価——アクティブ・ラーニングをどう充実させるか』明治図書、2016年
- ⑥ 西岡加名恵・石井英真編著『Q&Aでよくわかる! 「見方・考え方」を育てるパフォーマンス評価』明治図書、2018年
- ⑦ 西岡加名恵・石井英真編著『教科の「深い学び」を実現するパフォーマンス評価』日本標準、2019年
- ⑧ 奥村好美・西岡加名恵編著『「逆向き設計」実践ガイドブック』日本標準、2020年
- ⑨ 西岡加名恵編著『高等学校における新しい評価(仮)』学事出版、近刊

68